

第 1 1 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 2 年 8 月 7 日（金曜）		午後 1 時 3 0 分 開会		
	休憩 14:29-14:40、14:40-14:50				
			午後 2 時 5 1 分 閉会		
	休憩時間： 0 時間 2 1 分		会議時間： 1 時間 0 0 分		
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室				
出席委員 氏 名	委員長 正村紀美子	委 員 中村 和宏			
	副委員長 鈴木 健充	委 員 柴田 正博			
	委 員 黒田 栄継				
	委 員 堀切 忠		議 長 早苗 豊		
説明員					
参考人					
欠 席 委 員 氏 名	委 員 西尾 一則				
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	係長 佐藤 史彦			
<p>『会議に付した事件と会議結果など』</p> <p>1 開 会 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項 ア 新嵐山スカイパーク活用計画について 委員長：資料は政策討論会での発言を整理したもの。いただいた意見等の取扱を委員会として整理したい。 委員長：「活用計画の中でなんとかしなくてはならないのは宿泊施設、キャンプ場の跡地である。」「ワイナリーが成功することで宿泊施設もプラスに働くのではないか。」「活用計画の位置づけだが、すでに動きは始めている事業も内容によっては直ちに対応しなければならないものもあるのではないか。」「活用計画に示されている図面だけでなく、実際に現地に出向き想像してみることも大事である。」について。 鈴木委員：宿泊施設。キャンプ場跡地は活用計画に出てこない。宿泊施設としては接客、食事という部分が重要だが計画にはない。パークゴルフ場を減らしてキャンプ場としている。計画自体に問題はないが視点として必要ではないか。 委員長：接客や料理、被災したキャンプ場の方向性が見えないということであるが。</p>					

柴田委員：被災したキャンプ場に手は付けないと認識している。町の活用計画と嵐山株式会社の計画とは分けて考える必要もある。調査における注意点を考える。

委員長：民間事業者に対して踏み込んでいく部分の線引きは気を付ける必要がある。

委員長：キャンプ場は手を付けないとの説明もあり、現時点では対象としない。宿泊施設も指定管理者側という判断で良いか。

柴田委員：行政と民間との部分が紛らわしくなっていることもある。民間部分も好意で説明されているところがある。

委員長：3セクではあるが、指定管理者は公募中であり、民間事業者の参入がある可能性もある。行政側からの報告という形で対応していくこととしたい。

委員長：現場を見て考えるべきという部分は。

堀切委員：大切なこと。デイキャンプやワイナリーなど進んでいる部分も目で見るといい。

委員長：現地に出向き視察してよろしいか。

(異議なし)

委員長：「ワンデイキャンプは指定管理者からの提案であるが、イベントが赤字になれば町が補填することになるのではないか。」「トライアルとして実施しているワンデイキャンプの検証報告を調査すべきだ(参加者数、年代層、利用者の居住地、事業費、効果など)」、「キャンプによって相当人が訪れているのは事実であり良い。反面、レストランやバーベキューの施設利用が落ちているのではないか。トライアルの検証をしっかりとしてほしい。」について。

柴田委員：調査を行うよう要望されたものと捉えるべき。

鈴木委員：トライアルであり、検証は必要。レストラン等の影響も確認すべき。

黒田委員：実施主体から意見を聴き、現状の施設で充足しているかなど確認してはどうか。優先順位などを考える基礎にもなり得る。

委員長：指定管理者から町への報告内容を確認していく。事業者から直接という部分はこの場で手法は出せないが、町などを通して検討していくということで良いか。

(異議なし)

委員長：「今年度から指定管理者は公募となった。公募がなかった場合、委員会として考えはあるのか。」について。

柴田委員：町がどういう視点で選定するかという部分が委員会での調査項目となる。手を挙げてくれる業者がいるのかなど、これまで町も苦慮していた部分。9月の業者選定であり状況を確認してはどうか。

委員長：状況を担当課に確認しながら調査していく。

委員長：「さまざまな議論をしてきて今の新嵐山に至っている。新嵐山は町民の福利厚生施設であり、今後も必要であるということが前提にあり今回の計画策定である。しかしコロナ禍で観光業がどうなるのか。経営を考える投資と、福利厚生施設との両面で考えていかななくてはならない。町としてどこまで投資していくのか、委員会の中でも十分に議論をしてほしい。」「計画のビジョンは一致できるが、コロナの状況があり人の動きが世界的に変化する中で、この計画を進めてよいか、どこまで町の財政を投入するのかまでも含めて調査をしてほしい。」について。

黒田委員：コロナで今後どうするのか、町民ファーストという部分が今回の討論会で大きな部分と考える。進めては良くない部分や今だから進めるべき部分などがある。例としてアウトドアの部分は今進められる部分。キッズパークも密にならないものにするのかなど委員会としても考える必要がある。ソフト面の工夫により投資を抑えるなど。

堀切委員：コロナで考え方は変えるべき。第5期総合計画の位置付けでは、対象は町外観光客となっている。町民を第一として見直すべき。投資も含めて町民が参加して計画を見直す必要がある。

中村委員：当初はいかに町外から人を呼び込めるかを考えていたが、町民にいかにか財産として認識してもらえかが大切となってきた。軌道修正が必要な部分があれば立ち止まって検討する必要もある。

黒田委員：対象をどちらかに絞る必要はない。多くの町民に利用されていないならば、投資が増えるような考え方も出てくる。収益も考えると町外の客にも満足してもらう必要がある。どちらかに特化した方が出費も増える可能性がある。

鈴木委員：コロナ禍の中進めなければならない。町民が誇ることのできる場所づくりが重要。キャンプ場も盛況だが、ターゲットを道内とするなど町民も喜べる足元がしっかりした施設とすべき。

委員長：町内と町外で対立すべきではない。町民が利用できる施設という観点はこれまでも議会で議論されてきた部分。町民の満足が得られる施設にという意見が多かったが。そのようなまとめで良いか。

(異議なし)

委員長：町民という視点では活用計画の変更という部分は。

柴田委員：どこから手を付けていくかなど、今後調査すべき点。担当も試行錯誤しており、公式ではなくても本音の部分で聞いてみたい。その中で優先順位など意見を出していけないか。

黒田委員：今までやったことのないことにチャレンジしていることは共通の認識。現場を見てからという部分もある。町民の声を聴きながら方向性の調査をすべき。計画の見直しまで求めるものではない。

委員長：活用計画の見直しではなく、ロードマップの優先順位についての調査として進めていく。

委員長：「活用計画の概算がいくらになるのか、不安である。」、「全体のボリュームがあって、各年度個別の予算があるはず。」、「未来の子どもたちのためにも投資すべきである。」、「計画にあるロードマップをみるとキッズパークの整備が令和6年度となっている。子どもが集まることが大事であり、再整備も優先的に取り組んでいくべきだ。」について。

柴田委員：何を優先するか。子どもたちの体験の場であれば早くするべき。どこの部分に絞っていくか。完全に固まったものではないため調査していけばよい。

堀切委員：8月に投資規模の概算を出すとの説明もあったが、新聞報道が先になったことに違和感がある。至急概算の数字について調査すべき。

柴田委員：正式に聞いておらず、中身も判然としない。活用計画が進んでいる部分、こ

れからの部分含めて調査していけばいい。

委員長：正式な調査、情報はこれからの調査としていく。

委員長：政策形成過程による論点整理において、事業費が不明確という点があったが、町の部分だけなのか民間の部分も含めるのかなど、どの部分を調査していくべきか。

柴田委員：概算で出てくる数字はどこの部分か。改修などは町の負担と考えられるが、どういう方向に嵐山が向かうのかが決まらなければ、全体の事業費は出てこない。その部分も含めた町との議論ができると良い。

委員長：8月中に概算が出せるということであり、その部分で調査することで良いか。
(異議なし)

委員長：ほかに議論すべき点はあるか。

中村委員：キッズの関係。まだ時間があり、意見聴取の方法として子どもの意見を聴きながら進めていくべき。学び、体験できる場所となるといい。将来住んでくれる大人になっていく。

黒田委員：投資すべき部分を描いて投資すべきだが、集客があつて利益になる部分があつてもいい。経営計画的な投資の意見交換も必要。

鈴木委員：子どもへの投資は早く進めてほしい部分ではあるが、全体計画で考えればやむを得ないスケジュール。嵐山が町民にとってどういう場所かを最優先に考えて進むべき。

委員長：集客、呼び込める部分は優先して進めるということで一致してよろしいか。
(異議なし)

委員長：政策討論会の意見等について委員会としての整理ができたため、本日はここまでとしたい。
(異議なし)

委員長：以上で調査事項「ア 新嵐山スカイパーク活用計画について」を終わります。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

8月20日 木曜 9時30分からとします。

(2) その他

委員、議長、事務局ともになし。

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	1名	合計	2名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和2年8月7日

総務経済常任委員会委員長 正村紀美子